

# 灯籠囲み 盆踊り楽しむ

## 摩耶山天上寺で「四万六千日大祭」



灯籠を囲んで盆踊りをする参加者ら＝摩耶山天上寺

### 灘区

1日のお参りで4万6千日分の功德と御利益を授かるときに「四万六千日大祭」が8日、灘区の摩耶山天上寺であった。夕闇に染まり始めた境内では約千個の灯籠がともされ、来場者

らは涼しい山の風と幻想的な空間を楽しんでいた。

1200年ほど前から続くといわれる同大祭。毎年8月8日と9日に行われ、日付の変わり目（9日午前0時）の瞬間に願い事をするとかかなう伝説がある。天から星が下ってくるという意味で「星下り会式」とも呼ばれている。

日が傾き始めるころ、置

かれた灯籠に火をともし「萬燈会」があり、ろうそ

くの炎が暗闇の中にお堂を浮かび上がらせた。その周囲では灘区連合婦人会の約30人が「六甲山節」や「奥摩耶音頭」などに合わせて盆踊りを開始。同会の玉田はる代さん（72）は「摩耶山の盆踊りは特別。毎年ここで踊れることを感謝した

い」と話した。

（西竹唯太郎）